

答 辞

冬の寒さも和らぎ、暖かな日差しに春の訪れを感じることができた季節となりました。本日は、ご来賓の皆様、先生方、保護者の皆様のご臨席のもと、晴れやかな卒業式を催していただいたことに、心より感謝申し上げます。

振り返ってみると三年前、僕は、期待と不安を胸に修猷に入学した。

初めは右も左も分からず、目の前の課題に、ただただ食らいついていた。

毎日勉強と部活動に没頭し、学校行事では先輩方の姿について行くのが精一杯だった。

こうした修猷での日々は、慌ただしく、あつという間に過ぎ去っていった。

けれど、僕は修猷で多くの経験を積み、確かに大きく成長してきたと思う。

勉強や部活動では、自らの目標を達成するため、日々懸命に努力を重ねた。

途中で辛いこともあったし、逃げ出したいこともあった。

けれど、前を向き続け、苦しみながら着実に一歩ずつ前進した。

僕は、こうした課程のなかで、自分の決めた目標に対して諦めず努力することの難しさ、最後までやりきった時の達成感を体感することが出来た。

また、学校行事でも、僕は知らぬ間に修猷を受け継ぎ、自分達の手で行事を創り上げた。

大文化祭では、リーダーを中心に、クラスで知恵を出し合い、時には対立しながら、一つの形を体現した。

文化部のパフォーマンスや、バンド、ダンスなどの有志活動においても、日々の活動の精華を一杯表現した。

最後の大運動会は、あいにくの雨。それでも僕は、一夏の思いをこの一日にぶつけた。

目を閉じれば、応コンの歌詞と共に、二ヶ月の思い出が鮮やかによみがえってくる。

何年先も忘れることのない、強い大運動会がそこにはあった。

こうした経験を積んできた今だから、言えることがある。

修猷は、自分から行動を起こさなければ、何のチャンスも与えてくれない、ということ。

自分で決断し、目標に向かって邁進する力強さがあれば、きっと修猷で、何か大きなものを得ることができるといえる。

だから、僕達が卒業した後、修猷を担っていく後輩達には、自分で考え、悩み、行動する修猷生であってほしい。

学業、部活動、学校行事などにおいて、修猷で達成したい目標は一人一人違うと思う。

けれど、自分で決めた目標には、最後までこだわってほしい。

途中で苦しみ、投げ出したくなる時もあるかもしれない。でも、たくさん苦しみ、もがき続けた先で見える景色や味わえる達成感は、きっと修猷生活における大きな財産になると思う。

後輩達が、この修猷で積極的に挑戦し、自分達が誇れる修猷を、自分達の手で創り上げることを切に願っている。

思い起こせば、修猷での三年間は、多くの人との出会いに支えられたものだった。

個性豊かで、自らの目標に突き進む力強さを待った友と出会いは掛け替えのないものだった。

友よ、ありがとう。

共に学問を深め、共に部活動に励み、共に夢を語り合い、互いに切磋琢磨した日々は、刺激的で、多くの見方・考え方を学ぶことができた。

卒業を迎える今、改めて強く思う。

修猷での経験は、ここに在る仲間が存在があつてこそのものだつたと。

本当にありがとう。

しかし、いつまでも過去を名残惜しむことは許されない。

今日を以て僕は修猷を卒業する。今日、確かに僕は別れの時を迎えたのだ。

当たり前だった修猷での日々は過去の思い出となった。

もう二度と取り戻すことはできない。

でも、忘れないでほしい。修猷で僕らが築いた絆、培った力はこれからも残り続ける。

程なくして僕は、それぞれの道を歩き始める。自分の道を切り開く過程で多くの困難と直面すると思う。

そんな時、僕はきつと、修猷で培った経験を武器に、一歩ずつ前に進んでいける。

現在世界中で、紛争・環境問題・格差問題など、未解決の問題が山積みになり、次々に多くの問題が噴出する中、僕達修猷生の果たすべき役割は、益々大きくなっている。

変化の激しいこの時代、僕は、先頭に立つ勇氣を持ち、社会が抱える問題と向き合っていかなければならない。

僕はこれからも修猷生であり続ける。この修猷を卒業して、社会に出て行く修猷生として、僕は、世のため人のために尽くし、社会に貢献できる人間でありたい。そう切に思う。

最後になりましたが、

この三年間、僕達を温かく指導してくださり、日々の授業やホームルームを通して、僕達の教養を大いに高めてくださった先生方のおかげで、僕は修猷でこれほど多くの経験を積み、人として成長することが出来ました。心から感謝しています。

これまで、いつも僕達を応援し、支えてくれた家族。

いつの日も、僕達を見守ってくれて本当にありがとうございました。

家族の厚い支えがあったからこそ、僕はこうして無事卒業を迎えることが出来ました。

これからは、自分自身の道を自らの手で切り開いていきます。そしていつか、恩返しができる日まで、ずっと元気でいてください。

以上、僕達卒業生一同の旅立ちとお礼の気持ちを込めて、答辞とさせていただきます。

仲間達よ、本当にありがとう。

修猷よ、本当にありがとう。

平成三十一年三月二日

卒業生代表 山田 悠人